

活動名称 (40字以内)	森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験 ～世界の水文研究を支える100年を全身で感じよう～		
団体名等	大学院農学生命科学研究科附属演習林 生態水文学研究所		
活動区分	<input type="checkbox"/> ボランティアなどの社会貢献活動	選考方法	<input type="checkbox"/> 先着順
	<input type="checkbox"/> 国際交流体験活動		<input checked="" type="checkbox"/> 書類審査
	<input type="checkbox"/> 就労体験活動	募集人数	<input type="checkbox"/> 面接
	<input type="checkbox"/> 農林水産業・地域体験活動		2 人
	<input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク体験活動		
<input type="checkbox"/> 研究室体験活動			
活動方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンラインを活用しつつ現地活動を行う <input type="checkbox"/> オンラインのみで活動を行う		
大学院学生	<input checked="" type="checkbox"/> 含む <input type="checkbox"/> 含まない		
参加資格等	学部学生及び大学院学生		
活動期間	2023/9/26(火) ~ 2023/9/29(金) 4日間	主な活動予定場所	大学院農学生命科学研究科 附属演習林 生態水文学研究所 赤津研究林(愛知県瀬戸市北白坂町)
目的	生態水文学研究所の研究林で、90年以上の間続けられている世界的に見ても稀少な「森林・水・土砂の長期モニタリング」を支える仕事を体験する。「変わらぬもの」、「変わるもの」に思いをはせながら科学研究を支える仕事の何たるかを体感して欲しい。		
具体的な内容 (800字程度)	<p>生態水文学研究所(旧施設名は愛知演習林)は1922年に設置された附属施設で、設置当初からハゲ山の緑化とそれにもなう水と砂の流出に関する現象を教育研究する場としてきた。設置3年目の1925年から気象観測、量水観測を開始し、現在のようにデジタル機器やデータを蓄積する機器が存在しない時代から、代々の演習林教職員が観測技術を受け継ぎ、改良し、時には新しい技術を導入しながら、今日まで観測を続けている。</p> <p>今回の体験活動プログラムでは、過去の観測の苦勞を伝えるさまざまな資料を閲覧したり、実際に現在行われている観測業務を演習林の教職員と一緒に体験し、90年を超える記録の重さと継続することの重要性を感じ取ってもらいたい。</p> <p>プログラムの内容は3泊4日で実施するが、実際の実施日は「活動期間」欄に示した範囲内で参加希望者との相談で決定する。現在計画している主な内容は以下の通り(順不同)であり、これらの業務から当日の天候にあわせて実施する作業内容を選択して実施する。なお、夏場の屋外での活動体験も含まれるため体力的に厳しい場合も予想される。事前に生態水文学研究所の担当者と十分に相談して作業内容を理解してから参加することが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生態水文学研究所でこれまで続けてきた水文気象観測業務の体験。 ○野外での気象水文観測機器メンテナンス業務と現地でのデータ回収作業の体験 ○回収した気象水文データの解析とクオリティチェック作業の体験 ○土砂と水とのインタラクションを体感する作業、通称「砂出し」作業の体験 ○生態系モニタリング調査として樹木の葉や種子を収集・選別する作業の体験 ○UAVを活用したモニタリング調査の体験 ○生態水文学研究所の“記録の記録”、写真のアーカイブ作業の体験 ○生態水文学研究所のGISデータ整備作業の体験 		
備考			
参加するための費用*	内 訳(1名当たり)	その他*特記事項は以下に記載	
	交通費 21,520 円 宿泊費 200 円 食費 6,000 円 計 27,720 円	※交通費は東京駅から名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅まで、新幹線自由席利用で計算。夜行バス・昼行バス・普通列車を利用すれば、より安くすることも可能。最も安いのは青春18きっぷ利用。 ※施設使用料(宿泊費)は本学学生は免除(何泊しても無料)となるがシーツ洗濯代として200円を徴収。 ※食事は基本的に自炊となるので食費は4日間の目安	
		奨励金額	19,000円(予定)
ウェブサイト等	附属演習林 生態水文学研究所: http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/		